NEWS

国立大学法人初の大学附属「いずみナーサリー」発足

いずみナーサリー全景

国立大学法人として初めての附属学校部所属となる保育所「いずみナーサリー」が本年4月1日に装いを新たに発足しました。これに先立ち、3月25日に開所式、4月2日に、記念シンポジウム「大学の中で赤ちゃんが育つ―0歳からの発達と子育てを支えあう―」が開催されました。シンポジウムでは文部科学省男女共同参画学習課長清水明氏（5ページ参照）より祝辞をいただきました。本学での保育施設への取り組みは2001年に授乳室を設置、2002年にいずみ保育所として附属幼稚園内の1室で保育を開始しました。このたびこれを発展的改組して附属学校部所属にし、いずみナーサリーと改称して再出発したものです。これに伴い施設も幼稚園園庭に隣接した建物に移動して改修し、3倍の広さになりました。その結果、保育所と幼稚園の子どもたちが自然に交流できるつくりとなりました。さらに、子育てをしながら学ぶ学生支援の新たな仕組みとして大学院生対象の奨学金（保育料の半額）を準備しました。現在5名の子どもたちの保育のほか、月延べ約20名を時間預かりしています。

(文責：編集委員会)

いずみナーサリー
URL　http://www.ocha.ac.jp/izumi/

いずみナーサリーの奨学金制度を利用して

飯田 悦子 人間文化研究科博士後期課程

私は、お茶の水女子大学にいくら感謝しても足りないという思いを持っています。大学院に行き、より専門的な知識や研究的視点を身につけたいという希望は持っていました。しかし一方で、現実化できないかもしれないという思いもありました。2002年４月に次男を出産し、無職だった私に、勉強するチャンスを与えてくれたのは、お茶の水女子大にいずみナーサリー（当時は保育所）が出来た事実です。キャリアを積むという視点からは、ブランクになりかけていた私の子育て時期を、ナーサリーに次男を預け、大学院で勉強することで、有意義な時期に塗り替えることができました。さらに、今年度より、いずみに保育料を払っている場合には、保育料の半額を奨学金としていただけることとなり、経済面でのバックアップにも感謝しております。お茶の水女子大学は、子育て中の女性にも勉強する良質のチャンスを与えてくださる大学であると確信しています。

飯田悦子さんと２人の息子さん

大学の中で赤ちゃんが育つ

清水 明　文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長

本年4月、お茶の水女子大学に、教職員・学生・大学院生の子どもを対象とした保育所「いずみナーサリー」が発足しました。

大学内保育所の設置は、(1)仕事・勉学と子育てとの両立の支援、(2)子育てに関係する教育・研究の質の向上、(3)学生、職員に対する、赤ちゃんとのふれあいや子育ての大事さと楽しさを知る機会の提供、といった効果を持つのみならず、(4)大学が子育てを応援する姿勢と決意を示すこと、でもあります。

行政だけでは少子化の流れを変えていくことはできません。大学や企業が子育てに優しい環境・風土づくりに取組む、「子どもを大切にする社会づくり」が今求められています。

本保育所の設置は社会全体から見ればささやかな取組ですが、「大学の中で赤ちゃんが育つ」ことは普通のことであり、また、大学の使命・目標に照らし必要不可欠なものであるという考え方は、全ての大学、さらに全ての官庁、企業も見習うべき理念でしょう。

記念シンポジウムにおける郷学長、清水課長と内田理事

サイエンス&エデュケーション センターが目指していること

千葉 和義　サイエンス & エデュケーション センター

辞書で調べてみますと“教育”とは、「人を教えて知能をつけること」とあります。ただし、科学教育が「科学を教えて知能をつけること」であるならば、なにか、苦しいものを感じます。科学の楽しさは、学問的に「美しい」世界を味わうことにもありますが、その上で未知なる世界に一歩踏み出し、新しいなにかを発見することが、大きな感動を生み出すのです。そして、その行為は「研究」と呼ばれています。

サイエンス&エデュケーションセンターは、不思議？発見！ 感動＊ を合い言葉に、科学分野における研究という作業を、大衆化させることを目的としています。川柳をつくるように、日曜大工をするように、新しい料理を考案するように、科学研究を行いたい、そして科学文化を作りたいと考えているのです。

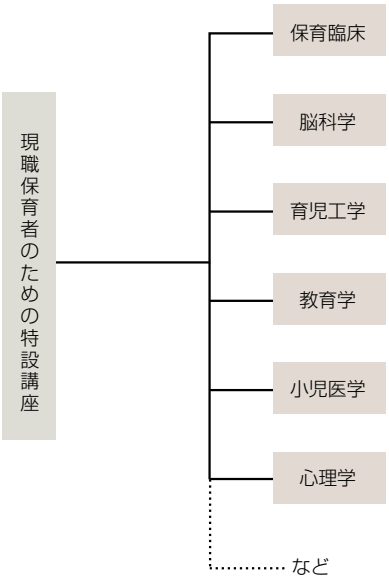
サイエンス & エデュケーション センター
URL　http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/

講義をする千葉和義センター長

現職保育者のためのキャリアアップ講座開設

◆特設講座スタート

今年5月に、アップリカ葛西株式会社の資金提供により、現職保育者（保育士及び幼稚園教諭）を主な対象とした、社会人向け講座が開設されました。この講座では、保育の質の向上、保育者の専門知識と技術のレベルアップを目指します。このため、保育臨床、脳科学、育児工学、教育学、小児医学、心理学など、新しい保育領域や各分野での最新の研究成果を学ぶことができるよう、カリキュラムが設定されています。授業は専任の榊原洋一（小児科医）、大戸美也子（保育学）の他、各分野の専門家が担当します。



◆社会人教育

授業は現職保育者が学ぶことができるよう、夜間、土曜日、集中講義で行われます。受講者は、科目等履修生として受講し、定められた試験に合格すれば、所定の単位が与えられます。必要とする基礎資格と単位を満たせば、大学評価・学位授与機構で「学士」を取得することも可能になります。

受講料は1学期6単位以上の履修者の場合は1学期6万円、6単位未満の場合は1単位につき1万円です。

■受講料

6単位以上	1学期　6万円
6単位未満	1単位につき1万円

■平成17年度開講科目

前学期	障害児保育教育論 I
	育児・保育環境と工学 I
	子どもの病気とそのメカニズム I
	保育実践研究 I
	保育臨床演習 I
	現代育児論 I
	保育者の情報学 I
	実践音楽表現 I
	保育と食育 I
後学期	障害児保育教育論 II
	比較保育学 I
	乳幼児の発達と脳科学 I
	保育実践研究 II
	乳幼児行動の発達心理学 I
	絵本・おもちゃ・メディア研究 I
	子ども幸せ学の探求 I

◆開講式

5月7日には開講式とオリエンテーションが行われました。平成17年度前学期には58名が登録しましたが、その半数以上は現職保育者です。1-3科目を履修している人が25名と最も多いですが、前学期開講の16科目全てを履修している人も４名います。また、本講座の科目は本学学生も受講でき、約30名が社会人とともに学んでいます。後学期受付は定員に余裕がある科目に限り受付け、受付時期は8月下旬を予定しています。詳細は7月下旬頃明らかになる予定です。

(文責：編集委員会)

調印式における本田前学長と
葛西健蔵アップリカ葛西（株）代表取締役会長

開講式とオリエンテーション

教授会にテレビ会議システム導入

お茶の水女子大学では学長の強いリーダーシップのもと、今年度より、各学部・センター部教授会においてテレビ会議システムを導入することが決定され、5月11日の教授会から実施いたしました。これは、4月に郷学長が就任されたことにより、新学長の方針を全教員に周知するとともに、今後の大学の運営方針と現状の正確な情報の伝達を行うことがねらいです。また、教授会にかかる時間の節約も兼ねています。

3学部と1センター部の合計4つの教授会室と、学長室をテレビ会議システムで結び、映像と音声、パワーポイントを用いた報告資料を中継しました。学長室からの報告をうけて、4教授会室と双方向の意見のやり取りが今後期待されます。

(文責：編集委員会)

テレビ会議にのぞむ
郷学長

平成17年度科学研究補助金の採択率

この度、文部科学省研究振興局学術研究助成課より、平成17年度の科学研究費補助金（以下、科研費）の配分状況が発表されました。

各国立大学法人では、いずこも運営費交付金の配分だけでは教育研究に支障をきたすため、外部資金の導入は必須で、科研費の獲得は重要と認識しています。このことから、法人化2年目の今年度は、本学でも取り組みが強化され、その結果申請件数は大幅に伸びて（175件　前年度比38%増）、そのうち49件が採択されました（前年度比75%増）。採択率は28.7%で、国立大学法人の中では第10位であり、全機関の中でも、大躍進し27位になりました。

また、新規採択と昨年度からの継続分の配分額の合計は、254,560千円（前年度比38%増）となり、郷学長より、教授会に対して大変喜ばしい情報として報告がありました。（文責：編集委員会）

■新規採択分における採択率

区分	採択率順位	申請件数	採択件数	採択率（%）
平成16年度	81	126	28	22.2
平成17年度	27	175	49	28.7

■新規採択＋継続分における採択件数・配分額

（金額単位：千円）

区分	採択件数	配分額（直接経費）	配分額（間接経費）	配分額（合計）
平成16年度	97	219,438	6,990	226,428
平成17年度	116	246,700	7,860	254,560